

京都大学サロン LHS

2023

京都大学の文理の知性を結集し、**生命、人間、社会**を対象に、**経済学・情報学・医学を中心に、データサイエンス、人工知能の最先端研究を広く紹介するとともに、産官学で活発に交流するサロン**を2020から新たに開始、2023年度も継続して実施します。

文理融合・学際性を尊重した交流のためのサロンとなります。

本機会に参加することで、「**大学の先端の現場で何を議論しているか**」を**企業の開発や事業企画に活用**できるとともに、産学連携の新たな道筋を描くことも可能になります。

複雑化する社会、目の前の課題解決ではなく、10年後を見据えた今後の成長事業の根幹につながるテーマ設定のヒントを見つける場となります。

実施概要

- 各回、①講義（60分程度）、②サロン研究者のディスカッション（30分程度）、③質疑応答（30分程度）を実施
- 各回ごとにテーマを設定、テーマに関して話題提供する教員が登壇
- 各回、京都大学の多様な分野の研究者（各回20～30名）がディスカッションに参加、ディスカッション参加企業様からの問題提起や質問も可能
- 1回2時間程度×年間6回のプログラム
- 各回終了後に懇親会を実施（新型コロナウイルス規制中は懇親会中止）
- 新型コロナ・ウイルスの感染状況を睨み開催方法を検討、リアルな開催（京都大学内での開催を想定）が可能になっても、遠方からの参加が可能のように、オンラインの視聴参加を可能な形で実施
- サロンでは文理融合・学際性を尊重し、自分たちの研究アプローチを異分野の研究者に紹介しつつ、かつ、相互に理解してもらうことを念頭に分かりやすい説明を実施

※サロンLHS2023のホームページは以下、または右記QRコード
<https://www.kyodai-original.co.jp/open-academy/program/?no=71>



参加料・定員

	参加料	人数	定員	参加形態	その他
サロン A会員	30万円 (税込)	1企業3名 まで参加可	20社	パネリストとしてディスカッションにも参加可	幹事、または話題提供者の先生への個別相談会の実施が可能 ※各回1回1時間程度 ※合計3回まで実施可能 ※各回2回目以降は別途実施費用が発生します。
サロン B会員	10万円 (税込)	1企業1名 まで参加可	20社	ディスカッションには参加せず視聴のみの参加(質疑応答は可)	

サロンLHS(レフト)とは

設立背景

近年、データサイエンス・人工知能が流行となり、文理融合・学際連携が盛んになっているものの、京都大学内においては横の連携がまだまだ活発ではない状況にある。

そこで、経済学研究科 依田 高典教授、情報学研究科 神谷 之康教授、医学研究科 川上 浩司教授、近藤 尚己教授を幹事とし、先進的な社会問題解決をはかる研究者同士の自由闊達な研究交流できるサロンLHS(レフト)を設立するに至った。

設立基本構想【理念】

- 生命(Life)・人間(Human)・社会(Society)を研究テーマとし、データサイエンス(Data Science)・人工知能(Artificial Intelligence)をツールとして活用し、先進的な社会問題解決をはかる研究者同士の自由闊達なサロンを目指す。
- サロンを通じて、イノベティブな研究創出・人材育成・産学連携を期待する。

発起人・幹事

京都大学 経済学研究科教授	依田 高典
京都大学 情報学研究科教授	神谷 之康
京都大学 医学研究科教授	川上 浩司
京都大学 医学研究科教授	近藤 尚己



京都大学 経済学研究科教授 依田 高典

1989年、京都大学経済学部卒、1995年、京都大学大学院経済学研究科博士課程修了。博士(経済学)。甲南大学講師・助教授(1995-2000年)、京都大学大学院経済学研究科助教授(2000-2007年)を経て、現在、京都大学大学院経済学研究科教授(2007年-現在)。その間、イリノイ大学(1997-1998年)、ケンブリッジ大学(2000-2001年、2005年)、カリフォルニア大学(2011-2012年)客員研究員を歴任。専門は応用経済学。情報通信経済学、行動経済学の研究を経て、現在はフィールド実験とビッグデータ経済学の融合に取り組む。日本学術振興会賞、日本行動経済学会ヤフォー論文賞、日本応用経済学会賞、大川財団出版賞、ドコモモバイルサイエンス奨励賞等を受賞。人間の経済心理の限定合理性に着目する「行動経済学」が専門。実際の生活の中で仮説検証を行う「フィールド実験」を用いる。経済学と機械学習の融合研究にも励んでいる。

メッセージ

データサイエンス・人工知能研究は文系・理系の学問を問わず、共通のツールになっています。そうしたツールを生命(Life)・人間(Human)・社会(Society)の問題解決にあてる研究会を、京都大学の研究科の垣根を越えて、学際的に立ち上げることになりました。また、ビジネス・サイドにも広く門戸を開き、大学の知を還元していきたいと思っています。これから新しい大学の在り方が生れることを祈り、皆さまの活発的な参加を期待します。



京都大学 情報学研究科教授 神谷 之康

奈良県生まれ。東京大学教養学部卒業。カリフォルニア工科大学でPh.D.取得後、ハーバード大学、プリンストン大学、ATR脳情報研究所を経て、2015年から京都大学情報学研究科 教授。ATR脳情報研究所 客員室長を兼任。機械学習を用いて脳信号を解読する「ブレイン・デコーディング」法を開発し、ヒトの脳信号から視覚イメージや夢を解読することに初めて成功した。SCIENTIFIC AMERICAN誌「科学技術に貢献した50人」(2005)、朝日21関西スクエア賞(2009年)、塚原伸晃賞(2013年)、日本学術振興会賞(2014年)、大阪科学賞(2015)等を受賞。2018年、ATRフェローの称号を授与される。サーペンタイン・ギャラリー(ロンドン)でのビエール・ユイグの展示「U Umwelt」(2018年)のための映像を提供するなど、アーティストとのコラボレーションも進めている。

メッセージ

大学では、運営業務でいろんな分野の先生と一緒に仕事する機会があるのですが、どんな研究をされているのか案外知りません。残念なことです。このたび、依田先生のお声がけにより、人工知能やデータサイエンスを切り口として分野を横断するサロンが立ち上がりました。研究対象は異なれど使っている数学や概念は重なるので、新しいアイデアにつながる「摩擦」が起こることを期待しています。「興味深いお話ありがとうございました」では終わらないプロボカティブな議論を楽しみたいです。



京都大学 医学研究科教授 近藤 尚己

社会疫学者。2000年山梨医科大学医学部医学科卒業。卒後医師臨床研修後、山梨医科大学助教・同講師・ハーバード大学フェロー、東京大学准教授などを経て現職。健康の社会的決定要因と健康格差を制御する手法に関する疫学研究・社会実験研究を進めている。東京大学未来ビジョン研究センター特任教授・(一社)日本老年学的評価研究機構理事・日本疫学会代議員・日本プライマリケア連合学会健康の社会的決定要因検討委員会副委員長・世界保健機関Clinical Consortium on Healthy Ageing専門家メンバー/Global Network on Long-term care コアメンバー。近著「健康格差対策の進め方」・「認知症plus: 地域共生社会-つながり支え合うまちづくりのために私たちができること」・「社会疫学(第2版)上・下」など。趣味は野遊び・園芸。

メッセージ

「誰も置いていかない」健康な社会づくりに向けては、学際的な協働による社会環境づくりが必須です。歴史的なイノベーションの多くが、一見無関係に思える分野や実務家同士の融合によってもたらされました。固定観念に縛られない自由な発想で多様な分野が交流する「場」として、サロンLHSに大いに期待しています。

サロンLHS2023 開催日程

- 第1回 2023/05/26 (金) 18:00~20:00
幹事: 経済学研究科 依田 高典教授
話題提供: 法学研究科 曾我部 真裕教授
テーマ: **プライバシーの権利はなぜ守られなければならないのか**
~法学の観点から考える~
- 第2回 2023/07/21 (金) 18:00~20:00
幹事: 情報学研究科 神谷 之康教授
話題提供: 情報学研究科 土居 秀幸教授
テーマ: **生物圏情報学**
生態系保全のための解析・予測・大規模情報の取得
- 第3回 2023/10/6 (金) 18:00~20:00
幹事: 医学研究科 近藤 尚己教授
話題提供: 人と社会の未来研究院 内田 由紀子教授
テーマ: **日本社会における個と場のウェルビーイング**
- 第4回 2023/11/24 (金) 18:00~20:00
幹事: 経済学研究科 依田 高典教授
話題提供: 企画
テーマ: 「企画中」
- 第5回 2024/01/26 (金) 18:00~20:00
幹事: 情報学研究科 神谷 之康教授
話題提供: 企画
テーマ: 「企画中」
- 第6回 2024/03/29 (金) 18:00~20:00
幹事: 医学研究科 近藤 尚己教授
話題提供: 企画
テーマ: 「企画中」

【ご参考】サロンLHSの過去実施テーマ

- 最適政策割当てと自己選択の経済学: 決めるのは政府か消費者か
- 機械学習による予測と意思決定
- 疫学モデルを活用した新興感染症対策の科学的助言: 過去と未来
- 環境経済学における実験研究とビッグデータ分析の可能性
- 再現性の科学
- 埋もれている自治体の健診データから、予防医学を目指す
- 生命システムに対するモデルフリー理論
- 統計学を哲学する: 統計はなぜ科学的根拠になるのか
- 「社会」はいかにして「皮下にしみこむ」?: 社会疫学からみる健康長寿達成戦略
- SDGsとEBPM: 統計モデルと経済モデルの応用
- 課題解決のための三種の神器: ドメイン知識・データ科学・システム科学
- AI・シミュレーションが拓く医療・創薬の未来

